

VOICES from the ARCTIC

Vol.32 / 2023.11.15

ArCS II 国際政治課題
北極域実践コミュニティ事務局



アークティック・サークルで 首脳たちが地域の課題を議論



毎年恒例のアークティック・サークルが、10月19日よりアイスランドのレイキャビクで開催される。この会議は2013年に設立され、過去10年間、政治家、学者、ビジネスリーダーが一堂に会し、北極域が直面する課題と可能性について議論してきた。今年は、アイスランドの環境・エネルギー・気候大臣Guðlaugur Þór Þórðarson氏、デンマークの元首相で現外務大臣Lars Løkke Rasmussen氏、米国アラスカ州上院議員のLisa Murkowski氏など、そうそうたる顔ぶれが登場する。

記事参照：Leaders Discuss Regional Challenges at the Arctic Circle in Reykjavík - ArcticToday (2023.10.18/ARCTIC TODAY)



モスクワ、砕氷船への予算を削減



ロシア政府は、2024年から2026年にかけて、強力な砕氷船の建造資金を100億ルーブル削減する意向だ。この予算削減は、戦争に明け暮れるロシアが軍事費を増強している最中に行われた。2024年の国家予算案によると、軍事・防衛費は68%増加し、総予算のほぼ30%を占めることになる。国防費の増額が、ロシア北方艦隊や北極域への軍事投資にどのような影響を与えるかはまだ明らかではない。

記事参照：Moscow cuts funding for icebreakers - ArcticToday (2023.10.13/ARCTIC TODAY)



← Founder and CEO of the Arctic Circle and former President of Iceland Ólafur Ragnar Grímsson (Photo: Arctic Circle)

中国コンテナ船、初の北極海横断往復航海を完了

中国の海運会社NewNew Shipping Lineは、北極海を經由して中国とロシア西部を結ぶ定期航路の初の往復航海を完了した。これは、小規模ではあるが、ロシアの北極海航路を利用した定期コンテナ航路を確立する第一歩となる。

記事参照：Chinese Container Ship Completes First Round Trip Voyage Across Arctic - ArcticToday (2023.10.9/ARCTIC TODAY)

気候変動がスヴァールバルにクラウドベリーをもたらす



「ここでクラウドベリーを見たのは初めてだったので、驚きました。自分の目を疑うほどでした」とスタイン・トレ・ペデルセンは語る。ペデルセンはノルウェー極地研究所に勤めており、トナカイを探していたときに、ロングイヤービュンとバレンツブルグの間にあるコールベイ溪谷で突然このベリーを発見した。2023年7月、北極圏の群島では平均気温が10度以上となり、これまでで最も暖かくなった。熟したクラウドベリーが見られるのは今回が初めてだが、スヴァールバルでは以前にもこの花が記録されている。

記事参照：Climate change brings cloudberry to Svalbard - ArcticToday (2023.10.3/ARCTIC TODAY)

グリーンランド氷床南東部高地の夏季融解量の増加を復元



日本の研究グループは、2021年に掘削したグリーンランド氷床南東部アイスコアの高精度年代スケールを構築し、産業革命前から現在にかけての夏季積雪融解量が北極域の温暖化に伴い増加したことを解明した。本研究結果は、産業革命（1850年）前から現在において、温暖化によりグリーンランドの内陸高地で夏季積雪融解量が増加していることを実証した。

記事参照：グリーンランド氷床南東部高地の夏季融解量の増加を復元～グリーンランド南東ドームアイスコアの高精度年代の構築～ | 2023年度 研究成果 | 国立極地研究所 (nipr.ac.jp) (2023.10.18/国立極地研究所)

イヌイット伝統のイッカク狩り、クルーズ船で危機に



デンマーク領グリーンランド東海岸のスコアズビー湾に観光客がクルーズ船で押し寄せ、イッカク狩りに必要な静寂が破られている。観光をめぐるっては、最寄りの集落から500キロ離れたこの村を再び活性化させると考える人もいれば、イヌイット最後の狩猟社会を破壊する可能性もあると心配する人もいる。

記事参照：イヌイット伝統のイッカク狩り、クルーズ船で危機に | 時事通信ニュース (jiji.com) (2023.10.31/時事通信)

気候変動とホッキョクグマの授乳の関係を明らかにする 新たな研究結果



トロント大学、米国地質調査所、ホッキョクグマ・インターナショナルの科学者たちは、カナダのハドソン湾西部で採取された1989年と1994年のホッキョクグマのミルクサンプルを調べた。その結果、ホッキョクグマが陸上で断食する時間が長くなると、体調が悪化し、栄養成分の低いミルクを子グマに授乳し、時には授乳を完全にやめてしまうことがわかった。低栄養のミルクはその後、子グマの成長率に影響を与える。

記事参照：New study reveals link between climate change and polar bear lactation - ArcticToday (2023.10.13/ARCTIC TODAY)



Researchers say there's more to learn about sea ice loss and its development on polar bear populations around the world. Photo: Thomas Nilssen

北極投資のための持続可能な未来への資金調達



近年、北極域の資源が世界的に注目されていることを受け、北欧投資銀行(NIB)は北極域への投資規模を拡大している。北極域で産業を興す上で重要な課題のひとつは、インフラの不足である。人や物資の移動には港や空港が必要だが、いずれも北極圏では南部に比べて建設コストが高い。NIBはアークティック・レンディング・ファシリティを通じて、グリーンランドで現在建設中の2つの国際空港（西部の町イルリサットと首都ヌーク）に融資を行った。いずれも2024年の開港を予定しており、地元経済への貢献が期待されている。

記事参照：Financing a sustainable future for Arctic investment - ArcticToday (2023.10.26/ARCTIC TODAY)

地球温暖化で北上？ 北極域でシロザケが産卵、生態系への影響とは



北極域の川で、シロザケの産卵が確認されたという研究が9月に発表された。より低緯度にある元の生息地から温暖化する北極域へと北上してきたのだらうと科学者たちは考えており、ここにも気候変動の兆候が見て取れるという。

記事参照：地球温暖化で北上？ 北極域でシロザケが産卵、生態系への影響とは | WIRED.jp (2023.10.23/WIRED)

ロシア、バレンツ・ユーロ北極評議会から脱退：「ロシア側のサーミとの協力は、ロシアの戦争によって深刻な影響を受けている」

先週、ロシアはバレンツ・ユーロ北極評議会からの脱退を発表した。これは、サーミ、ネネツ、ヴェプスといったロシア側の地域単位や先住民族もバレンツ協力から脱退したことを意味する。バレンツ地域の先住民作業部会（WGIP）は、こうして重要な参加者を失った。彼らはロシアがウクライナに本格的に侵略して以来、実際には協力に参加できていない。

記事参照：Russia Out of the Barents Euro-Arctic Council: “Cooperation With the Sámi on the Russian Side Is Severely Affected by Russia’s War” - ArcticToday (2023.10.2/ARCTIC TODAY)

ノルニッケル社、ロシアで最も汚染された都市で二酸化硫黄の回収を開始



ロシアの大手鉱山会社ノルニッケルは、ロシアで最も汚染された都市であるノリリスクにおいて、複雑な回収プログラムにより二酸化硫黄の排出を45%削減することを目的とした数十億ユーロ規模のプロジェクトを開始した。このプロジェクトでは、二酸化硫黄を硫酸に変換し、それを石灰石で中和して石膏廃棄物を生成する。ノルニッケル社によると、北極域の都市であるノリリスクの製錬所は年間約180万トンの二酸化硫黄を排出している。

記事参照：Nornickel starts sulphur dioxide capture in Russia's most polluted city - ArcticToday (2023.10.27/ARCTIC TODAY)

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。

【編集後記】

Vol.32は、2023年10月のニュースを掲載しています。

生態系への気候変動の影響が報じられる中、国際社会は一致した行動とは相反する方向に向かうという混沌の一途をたどる現在の潮流を改めて確認する月となりました。希望の光がまだ見えません。

(大西)

発行元：ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局
 監修：大西富士夫（北海道大学北極域研究センター）
 E-mail：tdcop@arc.hokudai.ac.jp
 WEBサイト：<https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/>

